

【ぼく達の使命】

沖縄県 石垣市立石垣第二中学校 一年 南 孝之輔 みなみ こうのすけ

「ジャー」と出しっ放しにしている洗面台の蛇口。ぼくは歯を磨きながら出しっ放しにしています。すると、母の鋭い眼光を背中に感じ、ぼくは蛇口を閉めます。いつも水を大切にしないといけないよと言っている祖母。

台風銀座と呼ばれている石垣島。小さい頃から夏に台風が来るのはぼくの中では当然のことで、特に驚くことでもありません。台風に大雨はセットで来るものだと勝手に解釈していました。でも、今年の六月の大雨は五十年に一度の大雨でいつもの道が違う道に変わっていました。

自然の恐ろしさを感じた瞬間でもありません。テレビや新聞で「五十年に一度の」というフレーズをよく目にしたり耳にしたりしますが、いざ自分が体験すると本当に恐怖でしかありませんでした。

ぼくの祖母は最南端の島「波照間島」で生まれました。その島は今でも、水不足による問題を抱えています。今年もあの六月の大雨の後の降水量はわずか六ミリ。七月の降水量は四ミリだと新聞に載っていました。島内の四方所のため池のうち、三カ所は半分以下の貯水量しかないという。このままだと干ばつ対策会議を開き、かん水方法などの対策をとらないとサトウキビの成長が止まって困るといふ記事の内容でした。

波照間島には川がないので、水資源を確保するには天水や井戸水に頼った生活を長い間していたそうです。

ぼくの祖母の小さい頃の手伝いは、井戸から水をくんでくることが仕事だったと聞いています。家から十メートルぐらい離れた井戸へ毎朝行って、水がめをいっぱいにならないといけなかったそうです。井戸水をこぼさないように、かつぐのも大変だったと話していました。

一日に最低でも一石二斗（ドラム缶約一ぱい）の水を家族のために、生活のために運んだそうです。

ぼくは、小学校の時に波照間島に家族でお盆に「ムシャーマ」を見に行き

ました。歴史を感じる建物がいくつもありました。島では家をたてる時には必ず水タンクも一緒につくったそうです。雨が降ると軒下に雨どいがある雨が降ると水タンクに集められるように工夫されていました。

他には、つぼの上に草や葉っぱを巻きつけておくと、朝つゆがついて水がたまり、それを、畑の野菜にかけたりしていたそうです。

苦労して、水の大切さを実感しながら生活して、早く水道が整備されることを待ち望んでいたところ、今から約五十年前の一九六九年に簡易水道ができたそうです。その時のうれしさは今でも覚えているそうです。島のみんなでお祝いをして喜びあったと、なつかしそうに話していました。

いつでも蛇口をひねれば水が出るのはありがたいことなんだと祖母の話を聞きながら思いました。

歯磨きの流しっ放しの水、「三〇秒六リットル、三分間では三十六リットル」もムダになります。水道代もかかるけど資源も大切にしないと考えると、考えるようになりました。

ぼくは、部活の時に体力をつけるために学校の上の方にある浄水場まで走っています。石垣島の生活用水を担っている浄水場。今は半世紀以上経過して、施設の老朽化が課題となっています。各島々、いろんな悩みや問題があります。どの国でも水は重要です。

人間だけでなく、全ての生物にとっても大切な水。「水の惑星」の地球をみんなで見守っていくことが、ぼく達の使命。